

## 南方（比島）

### 比島で現地召集されて

和歌山県 酒本 数三郎

私は昭和十四（一九三九）年六月、支那事変の補充兵として召集され、南支の広東に渡りました。

当初、和歌山の歩兵第六十一連隊に入隊したのです。そしてそこで召集された人は皆中国に渡ったのですが、四人だけが残され、一週間後には高槻の工兵隊に移動させられ、そこで新たに大阪を中心とした人たちによって部隊が編成され、中国へ渡った訳です。

最初、広東の黄埔という港で勤務していましたが、幸いにも私たちは戦闘部隊でなく通信兵として電報・

電話を取扱う部隊でした。分隊長以下七人で西村に派遣され家庭的な生活をしました。

その後、仏印進駐となり、無血の国境突破をして広東に戻り、一年半の軍隊生活で召集解除になり、生命に別状なく還ってくることができた訳です。

この時は、昭和十五年の暮で第一回の召集が解除と言うことで、神奈川県浦賀に上陸して原隊に帰りました。そして二、三日後には正月という時に除隊で帰宅しました。この帰還では、台湾までは暖かかったのですが、こちらは寒かったことを覚えております。

昭和十八年四月、このころ私は結婚して子供もあり、今度は何とかして戦争で外地へ行かされるのなら、せめて家族のために企業で働こうと言うことで、

和歌山県職安を通して東京に本社のある日比企業㈱の造船工募集に応募し、百人ぐらゐの応募者の中から採用されました。新宮で一人、御坊で一人、和歌山から二人と言うことで、五人が採用されました。日比企業は造船会社で私は製材工として行った訳です。集まった中には製材工なり大工などもおり、東京荻窪で錬成も受け、もしフィリピンに渡っても独り立ちできるかと言うことで心身の鍛練と手作業や農業もできるやうにと訓練されました。

昭和十八年八月十五日、二十人の社員と一緒に呉を出発しました。下関で船団を組んで比島目指してのジグザグの航路でした。船団とは輸送船が八隻と駆逐艦が後につき、台湾沖で魚雷を受け何隻かの僚船は沈没してしまいました。幸い私が乗った船は軽い損傷です。んで、台湾で修理し、高雄など三カ所の港に寄港して、目的地リンガエン湾に着いたのが十月五日でした。

台湾で船を修理する間は遊んでいたのですが、同じ船団で行った人の中では海の藻屑となった人もおった

のです。幸い私は助かってフィリピンに渡ることができたのですが、フィリピンのマニラ支店に赴任した時には、もうマッカーサーが、一度フィリピンから放り出されたのですが、また引き返して攻撃してきた時だったので、フィリピンで本職の仕事ができないと言うことになり、企業も安全なバギオへ疎開することになりました。

身分は日比企業の社員で、情勢悪化のため本来の仕事につかず、毎日トラックで荷物を運ぶなど会社の疎開作業に従事していました。

ある時空襲があつて、途中藪の中に飛び込んで、私はまだ兵隊になっていなかったのですが、機銃掃射でやられて生きた心地はしなかったものです。その間二時間程度でしたが、何日もかかったような感じでした。

それから第一回召集の経験があつたことから、マニラからバギオを何度も往復しているうちに軍歴のあるものは兵隊に、ということで見地召集になった訳で

す。現地召集ですから軍服を着て会社に勤めています。軍隊の経験の無い者は軍の囑託として、軍の指揮下に入る事になり、会社の重役も軍の囑託になりました。

企業は造船会社と言うことであつたので、私は軍隊も船舶の暁部隊だつたままです。それでも戦闘部隊ではなかつたため、無事帰還したと言うことでありますが、こんなこともあつたなあ、と言うことをお話ししたいと思います。

暑い国なので、皆さんもお聞きになつていゝと思います。暑いが、伝染病のマラリアと言う病気があるのです。物凄ゝい震えが来るのです。四〇度、時には四五度にも熱が出て、頭に血が上つて、そして命を奪われるというものです。

また、バギオというところへ行つておりますから、会社に勤めることができなくなつてから軍隊へ入つたのです。そこで軍隊へ入つてからは行軍で北へ北へ進んで行くのです。米軍に追われて撤退する途中、暑い

時なのですが、昼はアメリカの空襲に遇うから藪の中で寝て、夜になつて行軍する訳です。昼間はそう眠れず夜行軍で小休止がかかるとその場に眠り込み、目がさめたら部隊がおらず、置き去りにされたりしました。

行軍とは歩く訳ですが、そういう毎日が続いて二カ月ぐらゝ歩きました。ルソン島の北方のアバリまで行つて駐屯しました。アメリカ兵がフィリピンに上陸して、そして掃討作戦に出ている。アメリカは自動小銃、こちらは三八銃と言うことで、そんな中に日本刀を持つて行つてどうなるかと言うバカな話で、斬込隊などもほとんど殺られています。私の部隊は一個中隊百二十〜百三十人ほどいたのですが、マラリアにかかりほとんど死んでしまい、毎日穴を掘つて戦友を埋める始末でした。

現地で亡くなられた方の遺骨の多くが、まだ故国に還つていないと言うことですが、戦友として行軍していた兵隊の出身は栃木、千葉の人が多かったです。私

らのように現地召集と言うことで考えてみますと、戦友の名前すら分らないと言うことです。ですから、死んだら戦友だから埋めてやらないかと言うことで埋めたのです。名前が分らないから、その人の遺骨もそのままになる訳です。

そして行軍は谷を伝って水を求めながら、もちろん食べ物はないのです。米もない。畑の小屋にはカチカチのトウモロコシがあるんですが、これは一日がかりで煮ても食べると固い。また塩のないのに参りまして。塩の代わりにとうがらし、ニンニク、レモンでごまかして味つけです。ところがフィリピンというところは、パイヤ、バナナ、ドリアン、ココナッツ、などの果物が方々に有る訳です。これで食い繋いで行軍したのですが、ほとんど兵隊は病氣と飢餓で亡くなってしまいました。

山へ入って終戦を知ったのは昭和二十年九月二十日です。兵隊の間では、それまで噂としてはあったのですが、それは敵の作戦だろう、日本は負けることはな

い、馬鹿なことですが神風なんと言うことを信じていた訳で、絶対に負けないと、そう言うことがあって、二十日に漸く日本から大使と言う人が来て、部隊長に会い、そこで初めて終戦を知ったのです。九月二十五日、八十人たらずの人が残っていました。ところがそのころ私は軽いマラリアにかかりましたが、広島の牧さんという人と二人ですが軽症でした。動ける人が十人ほどいました。岐阜の人で杉本という小隊長が「酒本、牧、お前ら二人残って看病してやれ」と言われ「適当な時に山を下れ」と命ぜられました。

そのうち一人死に二人死に、残った五人を連れて、現地人に私物をやってソリみたいな物に乗って山を下ったのです。その途中でも一人死に、また武装解除後に收容所に向かうトラックの上でも死にました。穴を掘って埋めました。

收容所に向かう途中では、現地人が我々に「日本のバカヤロー！」と石を投げるのです。私はマラリアの熱が出ている中で歩いているのですが、少しずつ隊列

から後退し、ビリになって石を余計投げられたという訳です。途中休憩したら、夢うつつで子供のことを夢に見ました。それは終戦になれば殺されると言う意識があったのでしょうか、銃殺される夢を見ました。後で聞きますと「お前は脳震盪を起こして一昼夜寝ていたのだ」と言うことで、牧さんと言う戦友に介抱されて回復しました。

山を下りて米軍の武装解除を受け収容所に入り、アメリカ軍のテントで生活して、アメリカ兵の労働につきました。収容所は階級別に幕舎が建てられていて、牧さんは軍属なのでそこで別々に収容されました。昼間は使役に出たのですが、一日米一合と肉缶一つですから腹がへってしかたがない。広東時代に中国人が軍隊の残飯を取りに来たのを笑ったものですが、今は我が身となり、タバコの吸殻の入った米兵の残飯を空き缶ですくって持ち帰り、哨兵の目を逃れて戦友と分けあい空腹をしのぐような状況でした。

今ではとても考えられない恥すべき行為ですが、当時は餓鬼道に落ち込んでいたんですね。こんな生活が

十二月半ばまで続いて、第二回目の帰国と言うことで船が迎えに来ました。昭和二十年十二月二十八日、マニラから乗船、浦賀に上陸したんです。

四日間の船内でしたが食事はまあまあでした。名前は忘れましたが日本の船でした。ところが収容所に入る時支給されたのはパンツとランニング、それに「MP」と背中に書かれたシャツ一枚ですから、向こうにいる時は暑い季節でよかったです。日本、冬の冬に帰ったんですから、毛布一枚にくるまっても寒かったです。

浦賀では中国から帰った兵隊と一緒だったので「どこから帰ったの」と尋ねられました。向こうはきちんとした軍服姿です。浦賀には十日までいて、家から送られた衣服を着て家に帰りました。

先に書きましたように、私らは名前も分からずに多くの戦友をフィリピンに埋めて来ましたが、この遺骨はいまだに故国には還っていないと思います。こんな不幸な人もたくさんいるということを考えて下さい。

戦争というものは、最近思うのですけれども、昨年の同時多発テロ、そしてその報復戦争などありますが、ほとんどこれはテロをやった本人でなく、関係のない人が殺されたというのが、ほとんどだと思いません。

我々は戦争を体験しているのですが、戦争ほど凶悪犯はないと思います。国内では凶悪と言えば、人殺しや物を破壊する強盗、放火などですが、戦争というのは、これらをすべて含んでいるので、最大の凶悪犯だと思えます。

日本の歴史を見ましても、権力と権力との争いはあっても、町人がしてきたものはない。戦争はあってはならない。国内では傷を付けても犯罪になります。戦争は犯罪として扱うべきです。戦争は準備・行動の段階からも犯罪だとするようにならないといけないと思います。人間同士が殺し合うことが合法だと言えないと思います。本当に平和を望みたいと思います。